

市民の学びとつながりの場として機能強化

図書館本館リニューアル記念式典開催

図書館本館の改修工事が完了し、7月14日、記念式典を開催しました。

1階の旧AVブースには、ゆったりとくつろげ、軽い雑談や飲食もできる「いこいの庭」を設け、屋外に整備したテラスと芝生広場の「いこいの庭」と緩やかにつなげました。利用者は、職員お薦めの本3冊とレジャーシートを入れたバスケットを借りて、開

放的な空間で読書を楽しむこともできます。

現在の図書館本館は、平成11年4月にオープンし、市民の読書や学習の場を提供してきましたが、近年の人口減少や本離れなどにより利用者が減少してしまいました。この改修では、施設の長寿命化を図るとともに、市民の出番や全ての方々の居場所づくりになることが期待されます。



▲「いこいの庭」で行った記念式典

多くの市民に親しまれ利用される施設を目指して

「玄武洞スポーツ公園」竣工式

28年度から整備を進めてきた「玄武洞スポーツ公園」が完成し、7月30日、竣工式を行いました。

本公園は、国土交通省の円山川河川整備に伴い、円山川右岸の主測にあった円山川運動公園の代替施設として、田鶴野地区に整備したものです。移転に合わせ名称も「玄武洞スポーツ公園」に変更。少年サッカーや少年野球4面が一度にとれる多目的グラウンド

やウォーミングアップなどができる多目的広場、会議室やトイレなどを備えた管理棟、駐車場も約160台分を整備しました。また、施設周辺には、歩キングコースの他、環境学習としても利用できる湿地帯もあります。子どもから高齢者まで利用できる施設です。

式典終了後には、地元住民らによる三世代交流グラウンドゴルフ大会が行われました。



▲式典終了後、完成を祝い開催されたグラウンドゴルフ

「中貝市長とふれあいトーク」開催

7月25日から8月9日にかけて、市役所本庁舎および各地域の庁舎で、市民の皆さんが取り組んでいる活動や、日々の暮らしの中で思うことなどについて、市長と直接語り合う「中貝市長とふれあいトーク」を開催しました。

子育てグループや健康づくりを行うグループ、地域の活性化に取り組む団体や、中学生、高校生など、計15の団体が、市長とごつくばらんに語り合いました。



▲竹野の人口減少について質問する竹野中学校の生徒

主な市政の動き

7月

12日・出石子育て広場オープン(18日・但東、25日・竹野)

平成30年7月豪雨に伴う緊急消防援助隊豊岡第1次隊派遣職員の出陣式(15日・第2次隊)

13日・平成30年度豊岡市経営方針会議

14日・図書館本館リニューアル記念式典

21日・英語遊びサマースクール(8月4日)

24日・第1回豊岡市大交流(観光)ビジョン策定委員会

30日・玄武洞スポーツ公園竣工式

【8月】  
1日・ひびこホール使用停止

2日・豊岡市空家等対策協議会  
・新CIR(国際交流員)ミラ・ポメラッツさん辞令交付式

6日・豊岡市環境審議会  
・イングリッシュ・サマーキャンプin豊岡(8日)

9日・新CIR(国際交流員)ユリア・コーガンさん辞令交付式

## 近畿大学と連携し公共交通のニーズなどを把握し「バス路線等公共交通再編調査」を実施

路線バスは、地域住民にとって、最も身近な公共交通機関である一方、自家用車の普及や人口減少などにより、現状のまま維持運営することは困難な状況になっています。そのため本市では、近畿大学准教授の新井圭太さんと連携し、竹野地域（竹野海岸）と日高地域（神鍋）で「バス路線等公共交通再編調査」を実施しています。コミュニティバスを観光でも

活用してもらえようという新しい交通システム等の検討です。8月3日から5日には、近畿大学の学生23人が、バスに乗り込み、乗客の利用目的や移動区間などを調査。また、竹野地域では、観光事業所や来訪者に対し、市営バス「イナカー」の観光客利用や、事業所などが所有する車両でのバス運行の可能性等について、ヒアリングを行いました。



▲竹野浜で観光客にアンケート調査をする近大生

## 昭和基地とライブ映像で交信し「コウノトリKIDSクラブ夏休み特別授業「南極教室」開催

7月25日、市役所本庁舎大会議室で、南極の自然などを学ぶ「南極教室」を開催しました。子どもたちがコウノトリや豊岡の自然に触れ、楽しく学び、コウノトリ野生復帰を未来につなげるために活動する「コウノトリKIDSクラブ」の特別授業として、国立極地研究所の協力で初めて実施しました。

授業には、同クラブを中心に市内の小学校高学年の児童とその保護者ら約70人が参加。インターネット回線で南極昭和基地と中継を結び、第59次南極地域観測隊員の東野智瑞子さんが、自然環境や基地での生活などを解説しました。参加者は、極寒の中での実験やオーロラ、ペンギン、施設などの紹介に興味津々。また、会場には、南極の氷が持ち込まれ、氷に閉じ込められた太古の空気がはじける音や、おいおいに感じました。



▲東野隊員らに手を振る参加者

## 中貝市長の徒然日記 (130)

### バスの中の風景

歩いて暮らすまちづくり。ほくは真夏でも、50分かけて元気よく徒歩で出勤し、部屋に着くや扇風機で汗を乾かしてから仕事を始めます。

が、さすがにこの夏は、やめました。命にかかわる暑さに抵抗しても、勝てません。で、歩いて12分ほどのバス停からe通勤をすることにしました。

その初日。小型のバスに乗り込むと、運転手がマイクで「おはようございます」と声をかけてくれました。

次のバス停に着くと、二人の女性が乗ってきました。一人が座り、席は満席になりました。

一人の若者が立ち上がりました。女性は、手と首を小さく振って遠慮しています。若者は、さらに「どうぞ、どうぞ」というように右腕を席に向かって大きく振って勧めます。会釈をして女性が座り、見ていた年配の女性から「やさしいなあ、やさしいなあ」とい

う声が上がりました。

ほくも思わず、「レディファーストはいいいね」と声をかけていました。

その若者の降りかけ。運転手が話しかけます。「先ほどはありがとうございます。猛暑が続きます。気をつけて行つてらっしゃい」

運転手は、バスが停車するごとに、乗客に気遣いの言葉をかけていました。

翌日。近づいてくるバス停に数人の高齢者が待っているのが見えました。席はすでにいっぱいです。すると昨日の若者ともう一人の若者がすつと立って、席を空けました。ほくもつられて立ちました。

バスが止まり、がやがやと人々が乗り込み、空いていた席に座り、何事もなかったかのようにバスは出発しました。相変わらず、降りかけに運転手から「今日もめっちゃ暑いです。気をつけて一日頑張ってください」と声がかかります。

灼熱の外気温の中、小型バスは今日も涼やかに走っているのであります。